

日本健康心理学会メールマガジン No.11



2013年6月21日 第11号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.8 大阪大学 平井 啓先生

1) 学会からのお知らせ

<http://jahp.wdc-jp.com/>

■国際委員会 <http://jahp-international.blogspot.jp/>

- ▼第13回国際行動医学会大会@オランダのご案内:
http://wencke4.housing.rug.nl/flyers/PAOG/SY_ICBM2014.htm
- ▼「ヤングヘルスサイコロジスト賞」応募締切は6月30日です
第5回アジア健康心理学会議に出席の若手研究者の方は奮ってご応募ください

■研究・実践支援委員会

- ▼学会員の研究・実践活動を奨励するための「研究・実践活動奨励賞」の公募について
<http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2013awardguidelines.pdf>

■第2回メンタルヘルスプロモーション研究会開催のお知らせ

- ▼日時・場所 2013年7月13日(土) 13時~16時
大阪人間科学大学
- ▼テーマ 身体活動とうつの関連性、禁煙活動と健康心理学、臨床心理学からみた健康活動など
- ▼参加・問合せ連絡先 t-ono@kun.ohs.ac.jp (大野太郎)
参加」と明記の上、名前、連絡先住所、所属を記載
18時~情報交換会に参加希望の場合は「情報交換会参加」と記載
- ▼参加申込期限 2013年7月1日(厳守)

2) 健康心理学コラムvol.8 「がん検診の受診率向上と健康心理学」(大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室 平井 啓先生)

健康心理学には主に2つの役割があると考えています。一つは、認知行動療法などの心理介入により、個人の健康に向上・維持に貢献する役割であり、もう一つ、地域やコミュニティの健康に貢献する公衆衛生的介入、政策的介入を行う役割です。

このうち、公衆衛生的な健康心理学の介入、活動の一つとしてあげられるのが、がん検診の受診率向上のための介入です。

がん検診は御存知の通り、がんを早期発見、早期治療し、地域の死亡率を低下させるための政策的介入の一つです。欧米では公衆衛生的な健康心理学の実践の取り組みに関するテーマとして多数の研究が行われてきました。

日本では体系的な研究が非常に少なかったため、2008年より、厚生労働省科学研究費補助金「受診率向上につながるがん検診の在り方や、普及啓発の方法の開発等に関する研究」班が立ち上がり、本格的な受診率対策に取り組みました。

筆者は、健康心理学者としてプロジェクトに参画し、

- 1) 乳癌検診の受診行動を説明するモデルの開発、
<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/pon.3293/abstract?sessionid=7B93A56EF4BC659C272796037A0110E0.d01+01>
- 2) 受診行動モデルに基づき対象者をいくつかのグループに分けるセグメンテーションアルゴリズムの開発、
<http://dx.doi.org/10.1080/10410236.2012.711511>
- 3) セグメンテーションアルゴリズムを用いたテイラードメッセージ介入による

地域での無作為化比較試験、
<http://www.biomedcentral.com/1471-2458/12/760>
の実施に関わり、課題と同時に一定の有効性を示すことができました。

本プロジェクトで行ったように、心理学・行動科学に基づくモデルの開発とそれに基づく介入をデザインし、地域・コミュニティでの実践に応用するという本研究のあり方は、日本の健康心理学においても公衆衛生的健康心理学の研究のモデルとなり、他の健康に関連した課題の解決にも応用可能なのではないかと思われます。

なお、この研究の詳細については、本学会、第26回大会にて発表予定ですので、ぜひその場で議論ができればと考えています。

日本健康心理学会広報・ニューズレター委員会
<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。
日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。
広報・ニューズレター委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>